

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in文星芸術大学 開催結果

1	日時	令和5(2023)年11月15日(水) 午後1時30分～3時20分
2	場所	文星芸術大学 南校舎棟 2F 大講義室
3	出席者	参加者62名(男性20名、女性42名) 県側出席者：知事、総合政策部長、政策調整監
4	発言数	8件



主な発言事項

No.	発言事項	関係部局
1	とちぎのブランド力向上について	総合政策部、生活文化スポーツ部、産業労働観光部
2	栃木県誕生150年の取組について	生活文化スポーツ部
3	文化活動への支援について	生活文化スポーツ部
4	環境保護活動について	環境森林部
5	防災・危機管理対策について	危機管理防災局・県土整備部
6	観光地への交通アクセスについて	県土整備部・環境森林部
7	人口減少対策について	総合政策部、生活文化スポーツ部、産業労働観光部
8	国体後のスポーツ振興について	生活文化スポーツ部

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in文星芸術大学 発言及び回答要旨

区分	地域版	開催日	令和5(2023)年11月15日(水)
----	-----	-----	---------------------

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
1	とちぎのブランド力向上について	マンガ専攻 2年	とちぎブランドを広めるにあたって工夫していることはあるか。 また、これからの栃木の顔にしていきたいものがあれば教えてほしい。	<p>回答者：知事</p> <p>最近までは、若い人達がテレビ番組でインタビューされた際、「栃木県は何もないからつまらない」と言う人が結構いたが、今はそうではなく栃木県には良いところがたくさんある。</p> <p>本県には雄大な自然や世界遺産「日光の社寺」に代表される優れた歴史文化があり、県内の国宝の点数は、47都道府県中第10位、国及び県指定等の文化財の点数では第11位である。幕府が置かれていた地域は国宝が多いのは当たり前であり、栃木県は幕府があったわけでも首都になったこともないが、国宝や重要文化財が多く、歴史文化に恵まれている。</p> <p>さらに、54年間連続生産量日本一位のいちご、宇都宮餃子なども多くの方に知られるようになり、どれも栃木の顔となるポテンシャルがあると信じている。こういった本県の魅力を県公式ファンサイトにおいて発信している。</p> <p>また、U字工事さんや井上咲楽さん、文星芸術大学講師の仔鹿りなさんなど、栃木にゆかりのある方々をとちぎ未来大使として、彼らのInstagramやPR用の名刺など、様々な機会を通じて、県内外に情報発信してもらっているところである。</p> <p>私から皆さんにお願いしたいことは、皆さん一人ひとりが栃木の顔となり、自信と誇りを持って栃木の良いところを多くの人に語ってもらい、広めていただきたいと思います。私自身も様々な場を活用して、本県の魅力を全国に発信していく。</p> <p>最近では、県の観光PR動画が国の主催する動画コンテストで日本一を獲得したり、県のウェブサイトが広報コンクールで入賞した。また、世界に配信しているものの中には100万回以上再生されている動画があるなど、SNSを活用した情報発信も多く行っており、今後も様々なツールを活用し、ブランド力の向上に引き続き取り組んで参りたい。</p>	<p>総合政策部 デジタル戦略課 (ブランディング推進室) TEL:2825 広報課 (広報担当) TEL:2192</p> <p>生活文化スポーツ部 文化振興課 (文化財保護担当) TEL:3424</p> <p>産業労働観光部 観光交流課 (インバウンド推進担当) TEL:3309</p>
2	栃木県誕生150年の取組について	マンガ専攻 1年	栃木県が誕生し今年で150年ということだが、県ではどのような取組で県民に魅力を発信しているか。	<p>回答者：知事</p> <p>県誕生150年の節目の年に、「みんなで創る、未来の栃木」をキャッチフレーズにして、約90の機関・団体が構成される県民の日実行委員会を中心に、市町や企業、団体等と連携・協働しながら、今年の1月から来年3月にかけてオールとちぎで記念事業を展開し、県民の皆さんに対してふるさと「とちぎ」の魅力を発信している。</p> <p>具体的には、6月に県庁などで開催した「栃木県誕生150年 県民の日イベント」など、県内各地で多くの記念イベントを開催しており、多くの県民の皆さんに御来場いただき、県誕生150年の節目をともに祝っていただいている。</p> <p>年度後半に入り、12月9日には日環アリーナ栃木を会場に開催する「若者応援ライブイベント」(事前申込必要、入場は無料)や、来年の2月24日には県総合文化センターで、「若者未来デザインフォーラム」を開催予定である。</p> <p>また、12月17日には宇都宮ライトキューブでeスポーツのイベントを開催予定であり、ゲームのキャラクターをモチーフにしたコスプレ大会の開催も併せて予定している。このように若い世代を対象にしたイベントも開催しているため、文星芸術大学の皆さんにもぜひ足を運んでいただきたい。</p> <p>これらの記念事業を通して、多くの県民の皆さんと、とちぎで生まれ、育ち、暮らす喜びや誇りを分かち合うとともに、未来に誇れる「新しいとちぎ」づくりに県民一丸となって取り組んでいきたい。</p>	<p>生活文化スポーツ部 県民協働推進課 (協働・多文化共生室) TEL:3422</p> <p>スポーツ振興課 (スポーツ企画担当) TEL:3604</p>
3	文化活動への支援について	総合造形専攻 2年	県には様々な分野のアーティストがいるが、どのような支援を行っていますか。	<p>回答者：知事</p> <p>令和3年度からスタートした栃木県文化振興基本計画(第2期)において、とちぎの「文化を担う人づくり」や「文化に親しむ環境づくり」の柱の中で、県ゆかりのアーティストの支援に努めている。</p> <p>「人づくり」については、県内で文化芸術活動を行う個人や団体、さらには、若手アーティストに対し、文化振興基金を活用した活動助成を行うほか、本県ゆかりのアーティスト情報を公開する専用Webサイト「とちぎアーティストバンク」をR4.5月に開設して、情報発信やマッチングを行うことにより、アーティストの活躍の場の拡大や活動の活性化につなげている。バンク登録者は、9月末現在で193名(うち美術25名)であり、文星芸術大学卒業のアーティスト3名(石川 琢哉さん(絵画)・水本 和宏さん(現代美術)・もくささん(刺繍))にも登録いただいている。</p> <p>なお、今年6月には、多くの県民の皆さんに、バンクに登録いただいているアーティストの活動を紹介するため、音楽ステージと作品展を開催したところである。</p> <p>「環境づくり」については、県立美術館や博物館、県総合文化センターなど本県文化の中核となる施設において、県民の皆さんが文化芸術に触れられる機会を提供している。</p> <p>県総合文化センターでは、H8(1996)年からコンセール・マロニエ21(新進音楽家コンクール)を行い、入賞者によるコンサートを開催している。これは、国籍・出身地を問わず参加できるものであり芸術家から高い評価を受けている。</p> <p>また、栃木県文化協会と共に県芸術祭を開催し、県民に広く発表の場を提供しているが、各部門には、25歳以下の若手アーティストによる優れた作品を表彰する「U25賞」を設けているので、ぜひ来年は皆さんに応募して欲しい。</p> <p>こうした様々な取組を通じて、県民の文化活動の更なる充実と、県内アーティストへの支援を図っていく。</p>	<p>生活文化スポーツ部 文化振興課 (文化芸術担当) TEL:2153</p>

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
4	環境保護活動について	総合造形専攻 3年	県には美しい自然がたくさんありますが、どのような環境保護活動を行っていますか。	<p>回答者：知事</p> <p>本県は、清らかに流れる河川や原生的な自然が残る奥山から身近な里山まで、多くの自然に恵まれており、県では、その豊かな自然を守るため、様々な環境保護活動を行っている。</p> <p>例えば、生息地が栃木県と千葉県のご限られた地域のみとなっているミヤコタナゴの生息環境の保全等による希少種の保護活動や、サクラ等を枯らしてしまう外来昆虫のクビアカツヤカミキリ対策等を行うことにより、多様で豊かな生態系の保全に取り組んでいる。</p> <p>また、県、国及び日光市で構成する奥日光清流清湖保全協議会において11月11日に開催した「コカナダモ」の刈り取り及び湖畔清掃活動により、湯ノ湖の富栄養化対策を行うなど、地域住民等と連携して、奥日光水域（湯ノ湖、湯川、中禅寺湖）の水環境の保全に取り組んでいる。</p> <p>さらに、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用した里山林の整備や維持管理、森づくり活動団体への人材育成や活動をサポートすることで、森林の持つ多面的な機能の保全を行っている。</p> <p>これらの取組には、県民の皆様をはじめとする様々な主体の理解と協力が不可欠であり、是非関心を持って頂き、ご協力をお願いしたい。</p> <p>日光の足尾では、足尾銅山の煙害等により荒廃した山々の緑化のため、NPO法人が毎年植樹活動を行っており徐々に緑化が進んでいるが、こういった民間団体の活動も含めて、自然保護、或いは緑化活動、外来植物の駆除など、美しい自然を守るために、これからも取り組んで参りたい。</p>	<p>環境森林部 自然環境課 (自然保護担当) TEL:3207</p> <p>環境保全課 (水環境担当) TEL:3189</p> <p>森林整備課 (森づくり担当) TEL:3296</p>
5	防災・危機管理対策について	総合造形専攻 4年	栃木県では様々な災害に対してどのような防災、危機管理対策を行っているか教えてほしい。	<p>回答者：知事</p> <p>県では、災害発生時の避難や救急・救助活動などの応急対策及び復旧・復興が的確・円滑に実施できるよう、「地域防災計画」を定め、災害予防や応急対策等を実施することとしている。</p> <p>県民が普段から防災情報を収集するとともに、災害時に適切な避難行動をとれるよう、「県公式LINE」等のSNSやHP、テレビ・ラジオなど、様々な広報媒体で防災知識の普及啓発を図ってきたところである。</p> <p>今年度から、県民の皆様が防災について学んでいただける動画を公開しているので、ぜひご覧いただき、ご家庭の防災対策にご活用いただきたい。</p> <p>さらに、災害の発生に備え、「総合防災訓練」や「防災図上総合訓練」等の各種訓練を県内市町と連携して実施しており、インフラ、電気、通信、ガス、水道、防災グッズを扱っている企業、自衛隊、警察、救急医療を担っている方等にも参加いただいている。また、市町の災害対応を支援するため、食料や飲料水、毛布などを備蓄する等の取組も行っている。</p> <p>なお、今年度新たに危機管理防災局を設置し、自然災害等への対応体制の強化を図ったところであり、引き続き、市町・関係機関と連携を図りながら、災害対応力の強化に取り組んでいく。</p> <p>近年、水災害が頻発・激甚化しており、全国各地で大雨による浸水被害が発生するなど、河川管理者による対策だけでは防ぎきれない状況となっている。そのため、令和3年9月に策定した「栃木県流域治水プロジェクト」に基づき、流域のあらゆる関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」を推進している。</p> <p>流域治水の取組例として、JR宇都宮駅前の田川は、大雨時には両側にある水田地帯に水を引き込んで一時的に川の流れる水量を減らすようにしている。これで洪水を防ぐことができれば、被害を出さないということになる。</p> <p>引き続き、昨年度作成したリーフレットや動画などのツールを活用しながら、「栃木県流域治水プロジェクト」に掲げる取組の充実強化を図り、県民や企業の皆様など、あらゆる関係者と協働で水災害の軽減を推進している。</p> <p>一方、土砂災害対策では、砂防施設の整備などのハード対策を進めているところであるが、土砂災害発生時の被害を最小限にするため、ハード対策と併せて、ソフト対策を推進している。</p> <p>ソフト対策としては、土砂災害の恐れがある区域を「土砂災害警戒区域」に指定し、県のホームページや市町で配布しているハザードマップなどで公表するほか、土砂災害警戒区域内にお住まいの方には、ダイレクトメールを送付するなど周知を図っている。</p> <p>また、大雨による土砂災害発生危険度が高まったときには、宇都宮地方気象台と共同で「土砂災害警戒情報」を発表し、緊急速報メールで配信している。これは市町で発令する避難指示の目安にもなる情報なので、防災活動の判断基準として役立てていただきたい。</p> <p>日頃から災害への備えを怠らず、危険と思ったら、ためらわず勇気を持って早めの避難をお願いしたい。</p>	<p>危機管理防災局 危機管理課 (総務企画担当) TEL2695 (災害対策担当) TEL2129 (危機・防災情報担当) TEL2133</p> <p>県土整備部 河川課 (企画治水担当) TEL2438</p> <p>砂防水資源課 (砂防技術担当) TEL2454</p>

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
6	観光地への交通アクセスについて	デザイン専攻4年	栃木県内の観光地は、公共交通が悪いように思える。どのような対策を行っているか教えてほしい。	<p>回答者：知事</p> <p>県としては、路線バスや市町による生活交通に対する運行費補助を行うとともに、第三セクター鉄道（わたらせ渓谷鉄道、野岩鉄道、真岡鉄道）に対し、施設整備や経営安定化のための補助を行っている。</p> <p>公共交通の利便性向上を図るため、交通系ICカードの導入、バス運行情報の見える化、ノンステップバスの導入等の取組を進めている。</p> <p>このほか、限られた人員による効率的な公共交通の運行を図るため、中山間地域等における「地域共助型生活交通」の導入に向けた市町や地域住民等の取組に対する支援、及び公共交通への無人自動運転技術の導入に向けた取組を進めている。無人自動運転バスの実証実験については、現在8市町で実施済みであり、今年度もう2市町でも実施を予定している。これから先は、無人のバス、タクシー等も駆使しながら、地域の皆さんの公共の足を確保していきたい。</p> <p>引き続き、地域の公共交通については、市町が主体となり、交通事業者や地域住民等と連携しながら、地域ごとに異なる様々な課題に対応し、それぞれの地域に合った公共交通の確保・充実を図っていくことが必要と考えているため、栃木県生活交通対策協議会等を通じて、市町等の取組を積極的に支援して参る。</p> <p>国内有数の観光地である日光地域は、マイカーによる来訪が7割を超え、観光シーズンにおける交通渋滞に起因するCO₂排出や首都圏からのアクセスの良さ等による日帰り観光の多さが問題となっている。</p> <p>こうした問題を解決し、「環境にやさしい観光地」としての日光地域のブランド力の強化を図るため、スマートフォン1台で「便利・お得・エコ」に周遊を楽しむことができる国内初の環境配慮型・観光MaaSとなる「NIKKO MaaS」のサービス提供を、官民連携により令和3年10月に開始した。</p> <p>NIKKO MaaSでは、日光地域の鉄道・バスをセットにしたお得で便利なデジタルフリーバスの利用をはじめ、EV・PHVカーシェア、シェアサイクルなど環境にやさしい移動手段を二次交通として提供しており、マイカーから鉄道・バスへの転換を促し、渋滞緩和等によるCO₂削減を図るとともに、二次交通の利便性向上による周遊・滞在型観光へのシフトを目指している。</p> <p>日光から那須、那須から益子、那須から佐野・足利というような広域の移動については、電車、バスの一本で次の目的地行けるような状況ではないので、交通機関を組み合わせることとなるが、多くの皆さんに栃木県に来てもらい観光してもらいたいと考えているので、容易に組み合わせをがら行えて、移動手段が便利になるよに、NIKKO MaaS等を目標に取り組みを強化して参る。</p>	<p>県土整備部 交通政策課 (公共交通担当) TEL2377</p> <p>環境森林部 環境森林政策課 (環境立県戦略室) TEL3302</p>
7	人口減少対策について	デザイン専攻1年	栃木県でも人口減少が加速していると思うが、少子化対策としてどのような取組を行っているか。	<p>回答者：知事</p> <p>人口減少問題の克服に向け、県では「とちぎ創生15戦略（第2期）」に基づき各種施策を推進しているところであるが、2022年の本県の合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に産む子どもの数）が3年連続で過去最低を更新し、全国平均1.26を下回る1.24となるなど、深刻さを増す少子化の現状を打開していくため、今年8月、県として取り組むべき施策を「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」としてとりまとめた。</p> <p>本県の若年層の未婚率及び平均初婚年齢は、他県と比較して上昇幅が大きく、有配偶出生率（既婚女性の人口千人当たりの出生数）は他県と比較して減少幅が大きい状況にあるなどの課題を踏まえ、プロジェクトでは、本県の目指すべき姿として、①若者の結婚の希望をかなえとちぎ、②理想のとも働き・とも育てを実現するとちぎ、③こども・子育て世帯にやさしいとちぎの3つを掲げ、結婚、妊娠・出産、子育ての各ライフステージに応じた切れ目ない支援を、より積極的に行っていく。</p> <p>また、先月13日には、県内経済団体5団体、栃木労働局とともに、「男性の育児休業取得に向けたとちぎ共同宣言」を行ったところであり、民間と行政が連携して、男性の育児休業取得率向上に向けた職場環境整備や機運醸成に取り組んでいく。</p> <p>この取組の一つとして、県では、男性が育児や家事に積極的に参画できるよう、初めて男性従業員に育児休業を取得させた中小企業事業主に対して「とちぎ男性育児推進企業奨励金(10万円)」を支給する制度を創設し、11月から申請受付を開始した。</p> <p>さらに、プロジェクトにおける目標の一つである「理想のとも働き・とも育ての実現」に向けて、11月22日を本県独自の「とも家事の日」に制定するとともに、市町や企業等と連携しながらキャンペーンを展開するなど、広く県民に「とも家事」の推進・定着を図って参る。</p> <p>栃木県での家事・育児の負担については、妻が3に対し夫は1となっており、家事だけに限定すると、妻が9に対し夫は1となっている。他県と比較すると妻の負担が多い傾向にある。夫も妻と同様に、家事、育児をする社会を目指し取組を強化していく。</p>	<p>総合政策部 総合政策課 (政策企画・地方創生担当) TEL:2206</p> <p>生活文化スポーツ部 人権男女共同参画課 (女性活躍推進担当) TEL:3074</p> <p>産業労働観光部 労働政策課 (労働経済・福祉担当) TEL:3217</p>

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
8	国体後のスポーツ振興について	総合造形専攻 1年	昨年度は、栃木県で国体が行われるなどスポーツが盛んな年となったが、スポーツ振興についてどのような取組を行っているか。	<p>回答者：知事</p> <p>栃木県では、昨年開催された国体のレガシーを継承し、スポーツを活用した地域活性化を推進するため、今年7月に「栃木県スポーツコミッション」を立ち上げた。国体レガシーを継承した取組等を促進するため新たに基金を創設し、スポーツと地域、観光の振興に結びつける取組を開始した。</p> <p>具体的には、県外のスポーツ団体が県内でスポーツ合宿をする場合や、本県で全国大会やアジア大会等を開催する場合に助成をしており、実績としては、3ヶ月間で全国規模以上の大会が3大会開催され、スポーツ合宿は延べ人数で800人弱が参加した。</p> <p>この功績が認められ、スポーツを活用した地方創生やまちづくりに取り組む自治体を表彰するスポーツ庁の第3回「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を栃木県と那須塩原市が受賞した。今回は26の自治体が表彰されたが、都道府県の受賞としては栃木県のみであり、通算でも沖縄県について2番目である。</p> <p>栃木県内ではこれまでに矢板市と栃木市が受賞しており、25市町のうち3市が受賞したことになる。このようにスポーツの振興に力を入れており、引き続き、まちづくり、地域づくり、観光地への支援に結びつけていきたい。</p> <p>昭和55(1980)年に開催された栃の葉国体後、日光市(旧今市市)はフィールドホッケー、足利市はレスリングの聖地となった。昨年の国体は上三川でフェンシングを行ったが、先日開催された全国小学生フェンシング選手権大会の優勝者は上三川フェンシングクラブに通っており、上三川町はフェンシングというも浸透してきたのではないかと思う。このように国体レガシーも地域毎に取り組み、スポーツの聖地を増やしていきたい。</p>	生活文化スポーツ部 スポーツ振興課 (スポーツ企画担当) TEL:3576